

安全データシート (SDS)

1 製品および会社情報

製品名：ブレーキ&パーツクリーナー

整理番号：090328

製品番号：P840

会社名：株式会社カスタムジャパン

住所：〒577-0814 大阪府東大阪市南上小阪 9-5

担当部門：研究開発室

電話番号：06-6634-1739 FAX 番号：06-6634-8239

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

火薬類	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
可燃性／引火性エアゾール	区分 1
支燃性／酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分 2
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性物質	区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：ミスト）	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分に該当しない

生殖毒性	区分 1A
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2（血管系）
	区分 3（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（中枢神経系、腎臓、膀胱）
	区分 2（神経）
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	区分 1
	区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報

毒薬・劇薬 該当なし

危険性 引火性を有する液体であり、蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。密閉された場所で熱を加えると爆発の危険がある。

有害性 気化物質は眠気やめまいを起こす可能性がある。液体に触れると目、呼吸器系および皮膚を刺激する。水生生物に有毒であり、水生環境に長期的な悪影響を及ぼすことがある。

安全対策 容器は換気の良い場所に保管すること。
ばく露を避けるために、使用前に注意書きを読む事。
この物質で汚染された床やすべての物を掃除するには水と洗剤を使用すること。
容器をしっかりと閉める事。
付着した際は直ちに汚染された衣服をすべて脱ぐこと。

3 組成及び成分情報

単一・混合物の区別：混合物(エアゾール)

物質名	化学式	CAS No.	成分構成比(%)	PRTR法	化審法	安衛法	毒劇物法
イソヘキサン	C ₆ H ₁₄	107-83-5	49-53	該当なし	(2)-6	該当なし	該当なし
エタノール	C ₂ H ₅ OH	64-17-5	11-15	該当なし	(2)-202	No.62	該当なし
プロパン	C ₃ H ₈	74-98-6	12-16	該当なし	非公開	該当なし	該当なし

ブタン	C ₄ H ₁₀	106-97-8	19-23	該当なし	(2)-4	該当なし	該当なし
二酸化炭素	CO ₂	124-38-9	0.1-3	該当なし	(1)-169	該当なし	該当なし

4 応急措置

吸入した場合	患者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かくして安静にさせること。 必要であれば病院へ搬送し、医師の診断を受ける事。 呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には酸素吸入を行うこと。
目に入った場合	直ちにまぶたをおさえ流水で十分に洗い流すこと。 上下まぶたを持ちあげ目玉から離して完全に洗浄する事。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗眼すること。 異常がある場合はすぐ病院へ患者を移動し、医師の診断を受ける事。
皮膚に付着した場合	汚染した衣服や靴を脱ぎ、触れた部位を流水で十分に洗い流すこと（あれば石鹸も使用）。 皮膚に炎症が生じた場合は医師に相談する事。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、嘔吐させないこと。 嘔吐するようであれば、体の左側が下になるように寝かせ気道を確保する事。 眠気を起こしているまたは意識がもうろうとしている患者に液体は与えないこと。 水を与え、口をゆすがせ、患者が飲める量の水分をゆっくり与えること。専門の医師に相談する事。

5 火災時の措置

消火剤	泡、粉末消火剤、散水または噴霧水、乾燥砂、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。 極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。 引火性の高いガス、液体及び蒸気の発生。 火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 内容液は加熱されると膨張、分解により容器が激しく破裂する恐れがある。
特有の消火方法	火元への燃焼水源を断ち、直ちに消火器などを使用して消火する。 可燃性の物を周囲から素早く取り除く。 速やかに避難し、関係者以外は立ち入りを規制する。 延焼の恐れのないように、水スプレーで周囲のタンクや建物などの冷却をする。 消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて

冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消化を行う者の保護

適切な保護具を着用し、空気呼吸器等を装備する。消火活動は十分距離をとって、風上から消火を行う。可燃性物質を取り除く。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

ばく露防止の為、肌や目に付着しないようにし気化物質を吸入しない事。

防護服、不浸透性の手袋、防護ゴーグルを着用する事。

点火する可能性のものは全て停止し、風通しを良くする事。

安全であれば、漏れのある缶は屋外の容器に入れ、点火の可能性のあるものから遠ざけて

圧がなくなるまで置いておく。

作業員・関係者を風上へ移動させること。

関係者に場所を知らせ、危険であることを知らせる事。

激しく爆発する可能性がある。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。

引火性が高いガス及び蒸気。着火源を取り除く。

空気より重く、低い場所に留まる。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。

環境に対する注意事項

可能な限り下水道や排水口、閉鎖場所等に入らないようにする事。

河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意すること。

封じ込め、浄化の方法及び機材

乾燥砂、土、不活性物質、バーミキュライト等で吸収、カバーする事。

安全であれば、漏れのある缶は屋外の容器に入れ、点火の可能性のあるものから遠ざけて圧がなくなるまで置いておくこと。

損傷のない缶は集めて安全な場所に保管する事。

残留物を集め密閉しラベルを張ってドラム缶に入れ処分すること。

衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。

蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。

付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理する事。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策に従い、保護具を着用すること。

静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性の物を使用すること。

取扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する事。

	工具は火花防止型の物を使用すること。
安全取扱注意事項	たばこ、裸電球、熱または点火の可能性のあるものから避け、禁煙対策も行うこと。 容器を接地する事。 取扱いに使う装置等も接地し、電機機器類は防爆型を使用すること。 火花を発生させない工具を使用する事。 この製品を使用する際に飲食もしくは喫煙をしないこと。 汚染された衣類を再使用する場合は洗濯する事。
接触回避	混触危険物質
衛生対策	取扱い後は良く手を洗うこと。

保管上の注意事項

技術的対策	静電気放電に対する予防措置を講ずること。 危険・有害物の貯蔵または取扱いに必要な証明及び換気の設備を設ける事。 定期的に漏れをチェックし容器を破損から守ること。
接触禁止物質	アルカリ、強酸化剤、酸化性物質、酸化剤
保管条件	直射日光を避けて、涼しく風通しの良い場所に垂直に保管すること。 ピット、地下室等、気化物質が充満しえる場所には保管しない事。 可燃物から離して保管すること。 気温 40℃以上の場所に保管しない事。
容器包装材料	漏れや破損の無い密閉可能な容器を使用すること。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度・許容濃度

物質名	管理濃度	許容濃度 (ACGIH)	日本産業衛生学会 (TLV)
イソヘキサン	データなし	TWA 500ppm	データなし
エタノール	データなし	TWA 1000ppm	データなし
プロパン	データなし	TWA 1000ppm	データなし
ブタン	データなし	TWA 800ppm	500ppm

設備対策	取扱設備は防爆型を使用し、洗顔及び身体洗浄剤の設備を設けること。 屋内作業場での使用は排気設備を設ける事。 取り扱い場所の近くには高温、発火源を置かれぬ設備にすること。
保護具	状況に応じ、有機ガス用防毒マスク、保護眼鏡、保護手袋、保護作業服、保護エ

ブロンなどを使用すること。

9 物理的及び化学的性質

物理状態	エアゾール
色	無色・透明
臭い	特異臭(弱い)
融点／凝固点*	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	5.0-6.0
動粘性率	データなし
溶解度*	データなし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)*	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10 安定性及び反応性

反応性	40℃以上になると破裂の恐れがある。
化学的安定性	静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。 高温の表面、火花又は裸火により発火する。
危険有害反応可能性	高压ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。 可燃性の液化ガスであり、空気と爆発性混合ガスを形成しやすい。 酸化性物質と激しく反応する。
避けるべき条件	高温多湿な場所での使用及び保管。

	火気や直射日光のある場所での使用及び保管。 衝突を避ける。 混合危険物質との接触を避ける。 静電気との接触。
混触危険物質	アルカリ、強酸化剤、酸化性物質、酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素など)を発生する。
その他の有害性情報	蒸気もしくはガスは引火して爆発する恐れがある。

11 有害性情報

急性毒性(経口)	既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分に該当しないとした。 急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。
急性毒性(経皮)	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。
急性毒性(吸入)	(気体及びガス) GHS 定義による気体ではない。 (蒸気) 急性毒性推定値が 50000ppm 超のため区分に該当しないとした。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／皮膚刺激性	区分 2 の成分合計が 55%のため、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	加成方式が適用できない成分からの判定を行い、該当成分が $\geq 3\%$ のため区分 2A に該当。
呼吸器感作性又は皮膚感 作性	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	該当成分が $\geq 0.3\%$ のため、区分 1A に該当。
特定標的臓器毒性(単回ば く露)	該当成分が $\geq 20\%$ のため、区分 2(血管系)に該当。 該当成分の合計濃度が $\geq 20\%$ のため、区分 3(気道刺激性、麻酔作用)に該当。
特定標的臓器毒性(反復ば く露)	該当成分が $\geq 10\%$ のため、区分 1(神経系、肝臓)に該当。 該当成分が $\geq 10\%$ のため、区分 2(中枢神経系)に該当。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

その他の有害性情報 液化ガスが皮膚に触れた場合、炎症や凍傷を起こす恐れがある。

イソヘキサン

毒物学でのデータは文献上発表なし。

二酸化炭素

吸入(ヒト)	LCLo:10 pph/ 1 m(10%) 報告なし
吸入(ヒト)	LCLo:9 ppm/5 m (9%)
吸入(ラット)	LCLo: 657190 ppm/15 m
吸入(ヒト)	TCLo: 2000 ppm 肺の影響 IDLH: 50,000 ppm

12 環境影響情報

水生生物に有毒。

水生生物には長期的な悪影響が生じる可能性がある。

水生環境有害性（短期・急性）（毒性乗率×10×区分1）+区分2が、濃度限界（25%）以上のため、区分2に該当。

水生環境有害性（慢性・長期）（毒性乗率×10×区分1）+区分2が、濃度限界（25%）未満のため、区分に該当しないとされた。

生態毒性 データ不足のため分類できない。

残留性・分解性 データ不足のため分類できない。

生体蓄積性 データ不足のため分類できない。

土壌中の移動性 データ不足のため分類できない。

オゾン層への有害性 データ不足のため分類できない。

13 廃棄上の注意

残余廃棄物 廃棄は必ず中身を使い切り、ガスを完全に抜いた後に各自治体の条例に従って行うこと。

事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または許可を受けた産業廃棄業者等に委託して処理する事。

本製品を用水路または排水路に流さないこと。

汚染容器及び包装 必ず中身を使い切り、中身がないことを確認して、各自治体の条例、関連法規に基づいて廃棄する事。

14 輸送上の注意

1. 輸送の際は容器を40℃以下に保ち、容器漏れのない事を確認し、荷崩れのないように処置を講ずること。
 2. 引火性エアゾールの為「火気厳禁」
- 共通：「7. 取扱い及び保管上の注意」の各項に従う。

条件

国内規制

陸上輸送：消防法及び道路法などの定めるところに従う。

海上輸送：船舶安全法に定めるところに従う。

海洋汚染物質：該当しない

航空輸送：航空法に定めるところに従う。

緊急時応急措置指針：126

国際規制

陸上輸送：ADR/RID の規定に従う

国連番号：1950

品名：エアゾール

国連分類：2.1

容器等級：一

海上輸送：IMO の規定に従う

国連番号：1950

品名：エアゾール

国連分類：2.1

容器等級：一

海洋汚染物質：該当しない

IBC コード：該当しない

航空輸送：ICAO /IATA の規定に従う

国連番号：1950

品名：エアゾール

国連分類：2.1

容器等級：一

15 適用法令

消防法 危険物第4類 第1石油類（非水溶性液体）危険等級II

労働安全衛生法 危険物・引火性の物を含有する。

危険物・可燃性のガス（プロパン、ブタン）

作成日：2014年9月26日

改訂日：2021年12月28日

名称等を表示すべき危険物及び有害物(ヘキサン、エタノール、ブタン)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(ヘキサン、エタノール、ブタン)

有機溶剤中毒予防規則：該当しない

酸素欠乏症防止規則、事務所衛生基準規則(二酸化炭素)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

該当しない

毒物及び劇物取締法

該当しない

船舶安全法

高圧ガス(エアゾール)

航空法

高圧ガス(エアゾール)

高圧ガス保安法

適用除外(液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス)

但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規定に従う。

海洋汚染防止法

C類物質(イソヘキサン)

大気汚染防止法

該当しない

16 その他の情報

参考文献

JIS Z 7252:2019、JIS Z 7253:2019

化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)改訂2版

各原料メーカーのSDS

備考

使用における環境及び条件については、弊社がコントロール出来かねるため、本情報の使用によって直接的または間接的に損失もしくは損害が生じたとしても、弊社はいかなる責任を負わない。

また本データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しているが、含有量、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではない。

この情報は新しい情報を入手した場合、追加又は改訂されることがある。

又、注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特別な取扱いをする場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上で使用すること。